

7月17日開業  
滞在型観光拠点施設

# 城下小宿 糶や

こうじ

(旧荻田家付属町家群)

城東重要伝統的建造物群保存地区に新たに開業した、滞在型観光拠点施設「城下小宿 糶や」(旧荻田家付属町家群)を紹介します。

〒32-7000 歴史まちづくり推進室 ☎32-7000



格子の向こうに広がる情緒豊かな町並み



旧荻田家住宅から付属町家群にかけ、本瓦葺きの軒が約55mにわたって連なる

## 城下小宿 糶や

ところ 林田町68

定員 A棟8人、B棟11人、  
C棟6人

※宿泊費など、詳しくはお問い合わせください

〒32-7000 ザ・シロヤマテラス津山別邸  
(山下) ☎24-2111



奥へと続く間取りも町家の特徴の一つ

梁組など当時の趣を残しながら、改装した室内



※「城下小宿 糶や」は、市で初めてのコンセッション方式(\*)で、企画提案を行った事業者から選出した株式会社HNA津山(ザ・シロヤマテラス津山別邸の運営会社)が運営します

\*市が施設の所有権を持ったまま、民間事業者が長期的に運営する方法

## 軒が続く町並み

旧荻田家付属町家群は、城東重要伝統的建造物群保存地区内にあり、国の重要文化財「旧荻田家住宅」の西側に位置します。

平成25年に寄付を受け、市では城東地区の観光の拠点とするための検討や整備を行ってきました。

城東地区は、町家(商人の家)が、出雲街道を挟むように約1.2kmにわたって並びます。

町家の表側の壁を街道の側溝ぎりぎりに建てるのが、城東地区の特徴です。結果として、1階の軒の位置が隣同士でそろい、長く連なる特有の景観を作り出しています。

## 歴史に思いを馳せながら過ごす空間

旧荻田家は、宝暦8(1758)年に創業したとされる造り酒屋です。「諸白」の商号で知られた有力な商人で、その町家は城東地区で最大の規模です。旧荻田家から連なる4棟の町家群は木造2階建てで、約250年前、江戸時代後期に建てられました。

町家は、間口が狭く、奥行きが長いのが特徴です。町家の特徴や建物の趣はそのままだに、台所やヒノキの浴槽を備えた宿泊棟3棟と、ラウンジ棟1棟の宿泊施設に生まれ変わりました。

町の歴史に思いを馳せながら、日常とは違う空間で、思い思いの時間を過ごしてみませんか。